

法学研修で学んだこと

Q1. 研修に参加して良かったと思うことは何ですか？

留学に参加して良かったと思うことは、視野が広がったことです。異文化の中で生活し、多様な価値観や考え方に触れることで、自分自身の固定観念を見直す機会になりました。また、留学先での新たな人間関係を築く中で、国際的なコミュニケーション能力や適応力が身につきました。さらに、学業面でも、自国とは異なる教育システムに触れることで、問題解決のアプローチや学び方の違いを理解し、より柔軟な思考ができるようになったと感じます。留学は自分の成長に大きく貢献しました。

Q2. 研修に参加したことで、どんな力が身につきましたか？ どんな点が成長したと思いますか？

海外で法律を学んだことで、主に3つの力が身につきました。まず、多様な法制度や法的アプローチに触れることで、比較法的な視点が養われました。異なる国の法律や判例を学ぶことで、国内外の法制度の違いを理解し、広い視野で物事を判断する力が強化されました。次に、異文化間のコミュニケーション能力が向上しました。法的議論においても、異なる文化的背景を持つ人々と意見を交わすことで、説得力のある論理構築や柔軟な対応力が必要となりました。最後に、言語能力の向上も挙げられます。専門的な法的用語や表現を使いこなすことで、法的文書の作成や国際的な法務に対応する力が身につきました。

Q3. 研修に参加したことで、今後の学習面と将来のキャリアに関し、どんな気づきがありましたか？

海外で法律を学んだことで、将来のキャリアに関していくつかの重要な気づきが得られました。まず、グローバルな視点が必要であるという認識です。法律は国ごとに異なりますが、国際取引や国境を越えた問題は増加しており、国内法だけでなく国際法や比較法の理解が求められます。次に、多様なバックグラウンドを持つ人々と協力する力が不可欠であると感じました。異文化間での交渉やコミュニケーション能力は、法務の仕事においても重要です。さらに、自分が専門とする分野の選択において、単に国内に留まらず、国際的なフィールドでの活躍を視野に入れることが可能であると気づきました。これにより、キャリアの選択肢が広がりました。

Q4. 研修中の一番の思い出は何ですか？

休日にロンドンに訪れた際、ロンドン大英博物館に行きました。

そこで世界中の歴史や文化に触れる貴重な体験をしました。

まず、エジプトのミイラやロゼッタ・ストーンなど、教科書でしか見たことのなかった歴史的な遺物を目の当たりにしたことが印象的です。その圧倒的なスケールや保存状態の良さに驚かされ、古代文明への理解が深まりました。また、ギリシャの彫刻や中世の武具、アジアの美術品など、展示品の多様さに圧倒され、ま

るで世界一周の旅をしているかのような感覚を味わいました。館内を歩きながら、各国の歴史や文化が交錯する場としての博物館の魅力を再確認しました。この経験は、歴史や文化を学ぶことの楽しさを改めて教えてくれました。

Q5. 未来の参加者へのメッセージ（次年度以降の参加者に向けて、これだけは伝えたい！と思うことを先輩として、メッセージをお願いします。）

留学は、新しい環境で多くのことを学び、自分を大きく成長させる絶好の機会です。最初は文化の違いや言葉の壁に戸惑うかもしれませんが、怖がらずにその挑戦を楽しんでください。現地の友人や先生と積極的にコミュニケーションを取ることで、視野が広がり、自分の考え方に新しい風が吹き込まれるはずです。また、失敗を恐れず、どんな状況も経験として受け入れてください。きっとその一つひとつが将来に繋がる大切な財産になります。自分らしく頑張って、素晴らしい留學生活を送ってください！